

国語科学習指導案

単元名（題材名）「伊勢物語の複数の章段を評価して、和歌の効果やはたらきを考えよう」（『伊勢物語』『芥川』『あづま下り』『筒井筒』）

令和6年10月 第1学年 指導者 後閑 貴仁

I 単元の構想

1 単元観

本単元では『伊勢物語』の「芥川」「あづま下り」「筒井筒」の3編を扱う。これまで、言語文化の古文で物語や歌物語を扱ったことはないものの、本単元の章段はいずれも短編であり、和歌についても比較的平易なものが多いため、古典を学び始めたばかりの生徒にとって取り組みやすい教材ではないかと考えられる。

単元の最終課題として歌物語における和歌の役割を考察させるが、その課題に向けて本文と和歌を別で提示し、それぞれの和歌が物語のどの部分に入るかを考えさせることにしている。それぞれの和歌が本文中のどこに入るのかを考える過程で、生徒が本文と和歌の関係をより深く考えることを期待している。そしてその活動は、各章段における和歌の役割を考察することにもつながり、最終課題を考える上での助けになると考えている。また、生徒たちはこれまでの古文の学習において、辞書や文法書の使い方、和歌の訳し方等を学習しており、本単元の活動によってそれらがどれだけ定着しているかを確認することができるようになっている。単元の最後に、「学習内容について」と「学習方法について」の二つの観点から全体の学習の振り返りを行うことで、生徒が自分の不足している部分に注目することにつながり、現在の自分の古文を読む力を評価することになるのではないかと考えている。

古典を学び始めたばかりの生徒にも取り組みやすい教材を用い、その中の和歌と本文の関係に注目しながら作品を読み解くことで、歌物語のおもしろさを味わうことが本単元のねらいである。

2 研究との関わり

平成30年告示の学習指導要領においては、生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力の向上に加えて、生徒の「主体的な学習」を実現することが求められている。また、『群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）』において、「群馬県の教育が目指す5つの学習者像」の一つとして「自らが主語となる学びをつくり、深めていく」を挙げている。生徒の「主体的な学習」の実現するためには、学習中に自己決定と自己調整の場面を設けることが必要だと言える。それはそれらの場面を設定することで、生徒が学習に対する責任感をもつことができるからだ。そのために、本単元では単元内自由進度学習を取り入れ、振り返りシートを工夫することで、授業内に自己決定と自己調整の場面を設定した。本単元では、計画と課題遂行の場面で自己決定の機会を設けるために、単元の課題は共通で示した上で、そこに至るまでの過程を生徒が決定するという形にした。また、授業中の取り組み方についても生徒がその時に学習しやすい形を選べるようにし、個人でもグループでもよいこととした。その中で自己調整を促すために、Google スプレッドシートを用いた振り返りシートを用意して、1枚のシートの中で計画と振り返りをできるようにした。進捗状況などを記録して、自分の計画と照らし合わせた振り返りを行うことで、進めるスピードや取り組む内容について生徒自身の調整を促すことが目的である。また、単元の最後に全体の学習を振り返らせることで、本単元での学びを今後に生かせるようにした。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	児童（生徒）の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや、古典特有の表現などについて理解することができる。（(2)ウ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用言は既習であるが、全て定着しているわけではなく、調べながら学習する様子が見られる。 ・ 助動詞については学習中である。文法書を調べながら訳を考えることができる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価できる。（B(1)ウ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前単元で和歌の学習をしており、訳し方、修辞等基礎的な内容は既習である。 ・ 歌物語は初めて学習する。物語内に和歌が出てくる効果について考えたり評価したりしたことはない。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習中に他者と関わろうとする様子が見られる。 ・ 自己の学習を振り返り、その後の学習に生かそうという姿勢が少しずつ見えてきている。

4 評価規準

知識・技能	○古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや、古典特有の表現などについて理解している。（(2)ウ）
思考・判断・表現	○「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。（B(1)ウ）
主体的に学習に取り組む態度	○粘り強く歌物語の複数の章段の特色を評価しながら、学習課題に沿って和歌の効果やはたらきを考察しようとしている。

[illegible]

Ⅱ 第2時の学習

1 ねらい それぞれの計画に合わせて学習を進め、自分が選んだ章段の和歌の役割を考察させる。

2 展 開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 本時のめあてをつかみ、他の人の振り返りシートも参照しながら前時の学習を振り返る。必要があれば計画表を修正する。（★）（導入10分）</p> <div data-bbox="167 593 805 728" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜めあて＞ それぞれの計画に合わせて学習を進め、自分が選んだ章段の和歌の役割を考察しよう。</p> </div> <p>S：計画どおりに進んでいるな。今日は和歌の訳を考えるとところから始めよう。</p> <p>S：和歌aには和歌③が入ると思ったけど、他の人の振り返りを見ると別の和歌を入れているようだから、改めて考えてみよう。</p> <p>S：前回1章段終わらせる予定だったけど、終わっていないから少し進めるスピードを早くしないといけないな。</p>	<p>◎前時の振り返りの中から、全体で共有した方がよさそうなものがあれば共有する。</p> <p>◎計画を修正する時間を取り、必要があれば修正するよう促す。</p>
<p>2 それぞれの計画に合わせて学習を進める。（★）（展開30分）</p> <p>S：分からないから友達に聞いてみよう。</p> <p>S：この助動詞は初めて見るから文法書を見てみよう。</p> <p>S：ここは友達に聞いてもどうにも解決できないから先生に聞いてみよう。</p> <p>S：「筒井筒」に入る和歌が難しいから、他にやっている友達がいなか探してみよう。</p>	<p>◎作業中に生徒が動きやすくなるように、取り組み方を改めて説明してから始める。</p> <p>○机間巡視をしながら、困っていそうなところの援助をしたり、明らかな誤読に関しては指摘をしたりする。</p>
<p>3 本時の振り返り、次回の予告をする。（★）（終末10分）</p> <p>S：おおむね計画どおりに進んだぞ。</p> <p>S：今日終わらなかったから、次回やろうと思っていた文法の問題は家でやって、なんとか最初の計画どおりに進むようにしておこう。</p>	<p>◎新しい気付きやその時間の疑問、反省点を振り返るように促す。</p> <div data-bbox="837 1568 1428 2027" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>文語の決まりや古典特有の表現に気を付けながら本文や和歌を読解している。＜プリント（知）＞</p> <p>それぞれの和歌が本文中のどこに入るかを考えている。＜Googleスプレッドシート（思）＞</p> <p>学習の内容や自分の学びについて振り返り、計画とのズレを修正しながら、最終課題に必要な情報をまとめようとしている。＜Googleスプレッドシート（態）＞</p> </div>